

【上田看護専門学校シラバス（授業計画）看護学科2年課程】

【必修・選択】	【必修】	配当学年・時期	1年次・前期	担当講師名
分野	専門基礎分野	単位数・時間	1単位・15時間	外部講師 医師
授業科目名	病理学概論	授業回数	7.5回	
【ねらい・授業目的・目標】				
<p>授業目標</p> <p>1. 病気の原因を明らかにする。</p> <p>2. 患者の身体の中でどのような変化が生じているのかを明らかにする。</p> <p>●患者の体内で細胞や組織、生理機能がどのように障害されて、疾患を引き起こしているのか、また疾病の発生傾向や発生要因などについて理解し、根拠をもって看護活動に取り組むことができようにする。</p>				
授業回数	【授業内容】			学習形態
1	病理学で学ぶこと 老化と死			講義
2	細胞組織の損傷と修復・炎症 免疫			
3	感染症			
4	循環障害			
5	先天異常と遺伝性疾患			
6	腫瘍			
7	代謝障害 生活習慣と環境因子			
【使用テキスト】		【単位認定方法】		
・系統看護学講座 専門基礎分野 病理学		・講義終了後、学科終了試験実施（筆記試験） ・60点以上合格。不合格の場合再試験実施（80点以上合格） ・再試験でも合格できない場合は、単位落としとなる。 （次年度、再取得）		
【実務経験と当該科目との関連】 ・実務経験がある形成外科医師が担当				

【上田看護専門学校シラバス（授業計画）看護学科2年課程】

【必修・選択】	【必修】	配当学年・時期	1年次・前期	担当講師名
分野	専門基礎分野	単位数・時間	1単位・30時間	外部講師 医師2名
授業科目名	解剖生理と疾患 I	授業回数	15回	
【ねらい・授業目的・目標】				
<p><目標></p> <p>= 単元A =</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 運動器をつかさどる関節の構造と機能・動き（運動）について理解する。 2. 運動器を動かす神経と筋の構造と機能について理解する。 3. 腱と靭帯の構造について理解する。 4. 形態・運動機能・歩行異常, 神経障害について発生原因について理解する。 5. 運動器疾患に対する検査, 発症機序, 症状, 病態, 治療, 予後について理解する。 <p>= 単元B =</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 呼吸器系が人体の中でどのような構造をなし、また機能を担うのか理解する。 2. その構造や機能が障害された状態を理解する。 3. 呼吸器疾患に伴う症状を自覚症状と他覚症状にわけ理解するとともに発生の機序を理解する。 4. 呼吸器疾患に伴う検査と治療・処置について理解する。 				
単元	授業回数	【授業内容】		学習形態
A	1	運動器の構造と機能 ①骨・関節 ②神経と筋肉 ③腱と靭帯		講義 プリント
	2	症状とその病態、疼痛整理 ①疼痛 ②形態異常、関節の異常 ③神経・筋肉の障害		
	3	診断・検査と治療・処置 ①診察・診断 ②検査 ③治療・処置		
	4	疾患の理解 外因性の運動器疾患 ①骨折・脱臼・捻挫・打撲 ②神経の損傷 ③筋・腱などの損傷		
	5	疾患の理解 内因性の運動器疾患 (1) ①先天性疾患 ②骨・関節の炎症性疾患 ③感染症・関節リウマチとその類縁疾患・変形性関節症		
	6	疾患の理解 内因性の運動器疾患 (2) ①骨腫瘍および骨軟部腫瘍 ②代謝性骨疾患 ③腱の疾患・神経・筋疾患		
	7	疾患の理解 内因性の運動器疾患 (3) ①上肢及び上肢帯の疾患 ②脊髄の疾患 ③下肢及び下肢帯の疾患 ④ロコモティブシンドローム・フレイル・サルコペニア廃用性症		
B	1	呼吸系の構造と機能 ①呼吸器の構造 ②呼吸の整理		講義
	2	呼吸器疾患の病状と病態生理 ①自覚症状 ②他覚症状		
	3	呼吸器疾患の検査と治療・処置 ①診察と診断 ②検査 ③治療・処置		
	4	感染症 ①気管支炎 ②インフルエンザ ③肺炎 ④結核		
	5	間質性肺炎 ①間質性肺炎 ②サルコイドーシス ③その他の肺疾患		
	6	気道疾患及び閉塞性肺疾患 ①気管支喘息 ②慢性閉塞性肺疾患 ③呼吸不全		
	7	肺腫瘍及び縦隔疾患など ①肺癌 ②形成異常 ③胸膜・縦隔の疾患 ④肺移植		
学科終了試験				
【使用テキスト】			【単位認定方法】	
医学書院 ①運動器 成人看護学[10] (単元A) ②呼吸器 成人看護学[2] (単元B) ③解剖生理学 人体の構造と機能[1] ④病理学 疾患の成り立ちと回復の促進[1]			評価は単元A 50%、単元B 50% ・講義終了後、学科終了試験（筆記試験） ・60点以上合格。 ・不合格の場合再試験実施（80点以上合格） ・再試験でも合格できない場合は、単位落としとなる。 （次年度、再取得）	
【実務経験と当該科目との関連】 ・実務経験がある整形経外科医師と呼吸器内科医師が担当				

【上田看護専門学校シラバス（授業計画）看護学科2年課程】

【必修・選択】	【必修】	配当学年・時期	1年次・前期	担当講師名
分野	専門基礎分野	単位数・時間	1単位・30時間	外部講師 医師2名
授業科目名	解剖生理と疾患Ⅱ	授業回数	15回	
【ねらい・授業目的・目標】				
<p><目標></p> <p>=単元A=</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 心臓の構造と機能を理解する。 2. 動脈および静脈の構造と機能を理解する。 3. 血液循環とその調節のしくみと働きを理解する。 4. 循環器障害にみられるおもな症状とその病態生理を理解する。 5. 循環器疾患の診断に用いられる検査法とその特色を理解する。 6. 薬物療法・心臓カテーテル治療・ペースメーカー治療・手術療法について理解する。 7. 虚血性心疾患の概念・症状・分類・検査・合併症・治療について理解する。 8. 心不全の概念・症状・所見・治療について理解する。 9. 血圧異常（高血圧・低血圧）の分類・診断や動静脈系疾患について理解する。 10. 不整脈の種類・診断・治療について理解する。 11. 弁膜症の原因・症状について理解する。 <p>=単元B=</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 腎臓,尿管,膀胱,尿道の構造について理解する。 2. 腎・泌尿器が代謝により老廃物や有害物質を排泄し恒常性維持することを理解する。 3. 腎・泌尿器疾患に伴う症状,原因,病態について理解する。 4. 腎・泌尿器の検査,治療,処置について理解する。 				
単元	授業回数	【授業内容】		学習形態
A	1	心臓の構造と機能 ①心臓の構造 ②刺激伝導系 ③ポンプ作用 ④血管の構造 ⑤循環の調節		講義
	2	症状とその病態生理 ①胸痛 ②動悸 ③呼吸困難感 ④浮腫 ⑤チアノーゼ ⑥めまい・失神 ⑦四肢の疼痛 ⑧ショック		
	3	循環器疾患の診察・検査 ①問診・視診・触診・聴診 ②心電図 ③胸部レントゲン ④心エコー ⑤脈波検査 ⑥心臓カテーテル ⑦その他の検査		
	4	循環器疾患の治療 ①薬物療法 ②経皮的冠状動脈インターベンション(PCI) ③心臓手術の管理 ④冠状動脈バイパス術(CABG) ⑤弁膜症に対する手術 ⑥大血管再建術 ⑦血栓除去術 ⑧補助循環装		
	5	疾患の理解 ①虚血性心疾患 ②高血圧症		
	6	疾患の理解 ①心不全 ②弁膜症 ③心筋疾患		
	7	疾患の理解 ①先天性心疾患 ②動脈系疾患 ③静脈性疾患		
	8	疾患の理解 不整脈（除脈性不整脈）・正常心電図波形の種類と特徴 ・心拍数の計測方法 ・洞不全症候群(SSS) ・房室ブロック ・脚ブロック ・ペースメーカー治療		
	9	疾患の理解 不整脈（頻脈性不整脈） ・洞性頻脈 ・期外収縮 ・発作性上室性頻拍 ・心房細動 ・心室頻拍 ・心室細動 ・WPW症候群・QT延長症候群 ・頻拍性不整脈の治療		
B	1	泌尿器系の解剖及び生理構造と機能		講義
	2	↓		
	3	泌尿器系の疾患及び治療		
	4	↓		
	5	↓		
		学科終了試験		
【使用テキスト】		【単位認定方法】		
医学書院 ①循環器 成人看護学[3] (単元A) ②腎・泌尿器系 成人看護学[8] (単元B) ③解剖生理学 人体の構造と機能[1] ④病理学 疾患の成り立ちと回復の促進[1]		評価は単元A 60%、単元B 40% ・講義終了後、学科終了試験（筆記試験） ・60点以上合格。 ・不合格の場合再試験実施（80点以上合格） ・再試験でも合格できない場合は、単位落としとなる。 （次年度、再取得）		
【実務経験と当該科目との関連】 ・実務経験がある消化器外科医師と外科医師が担当				

【上田看護専門学校シラバス（授業計画）看護学科2年課程】

【必修・選択】	【必修】	配当学年・時期	1年次・前期	担当講師名
分野	専門基礎分野	単位数・時間	1単位・30時間	外部講師 医師3名
授業科目名	解剖生理と疾患Ⅳ	授業回数	15回	
【ねらい・授業目的・目標】				
<p><目標></p> <p>=単元A=</p> <ol style="list-style-type: none"> 血液成分, 性状と機能について理解する。 血液凝固および免疫応答のシステムについて理解する。 造血幹細胞から各血球系統への分化について理解する。 貧血の症状・分類・成因・診断・治療について理解する。 出血性素因の病態生理と診断・治療について理解する。 末梢血検査, 骨髄穿刺・生検から得られる情報について理解する。 輸血を適正かつ安全に施行するための基本的な知識を習得する。 造血器腫瘍の分類と治療法・合併症について理解する。 <p>=単元B=</p> <ol style="list-style-type: none"> 身体内部変化, 外部環境の変化に伴う調整機能について理解する。 内分泌・代謝系の構造と機能について理解する。 ホルモンの作用機序, 産生と分泌の調整について理解する。 内分泌・代謝疾患に伴う症状, 原因, 病態について理解する。 内分泌・代謝機能の障害と検査, 治療, 処置について理解する。 				
単元	授業回数	【授業内容】		学習形態
A-1	1	血液基礎		講義
	2	赤血球		
	3	白血球		
	4	血小板		
A-2	1	赤血球系の異常について 鉄欠乏性貧血、巨赤芽球性貧血、再生不良貧血、溶血性貧血		講義
	2	白血球系の異常について 無顆粒球症、伝染性単核球症の病態と治療を学ぶ 造血器腫瘍について 白血病を中心に病態と治療を学ぶ 特に治療法としての造血幹細胞移植を学ぶ		
	3	出血性疾患について 紫斑病、血友病、採種性血管内凝固症候群（DIC）の病態と治療を学ぶ インフォームドコンセントについて考える		
B	1	第2章 内分泌・代謝器官の構造と機能 A内分泌器官の構造と機能 B内分泌器官とホルモンの機能		講義
	2	C代謝の概要と機能 第3章 症状とその病態生理		
	3	第5章 疾患の理解 A内分泌疾患 ①視床下部 - 下垂体前葉系～③甲状腺疾患		
	4	④副甲状腺疾患～⑨内分泌疾患の救急治療		
	5	B代謝疾患 ①糖尿病		
	6	②脂質異常症～④尿酸代謝異常		
	7	第4章 検査 A内分泌疾患の検査 B代謝疾患の検査		
		学科終了試験		
【使用テキスト】			【単位認定方法】	
医学書院 ①血液造血器 成人看護学[4] (単元A) ②内分泌・代謝 成人看護学[6] (単元B) ③解剖生理学 人体の構造と機能[1] ④病理学 疾患の成り立ちと回復の促進[1]			評価は単元A-1 25%、単元A-2 25%、 単元B 50% ・講義終了後、学科終了試験（筆記試験） ・60点以上合格。 ・不合格の場合再試験実施（80点以上合格） ・再試験でも合格できない場合は、単位落としとなる。 （次年度、再取得）	
【実務経験と当該科目との関連】 ・実務経験がある内科医師2名と内科消化器外科医師が担当				

【上田看護専門学校シラバス（授業計画）看護学科2年課程】

【必修・選択】	【必修】	配当学年・時期	1年次・前期	担当講師名
分野	専門基礎分野	単位数・時間	1単位・30時間	外部講師 医師3名
授業科目名	解剖生理と疾患Ⅴ	授業回数	15回	
【ねらい・授業目的・目標】				
<p><目標></p> <p>=単元A=</p> <ol style="list-style-type: none"> 消化と吸収のしくみについて理解する。 消化管を構成する器官の種類・位置・構造および機能について理解する。 消化管疾患の症状と病態生理について理解する。 消化管の障害と検査, 治療, 処置について理解する。 肝臓・胆道・膵臓の構造と機能について理解する。 肝臓・胆道・膵臓疾患に伴う症状, 原因, 病態について理解する。 肝臓・胆道・膵臓の障害と検査, 治療, 処置について理解する。 <p>=単元B=</p> <ol style="list-style-type: none"> 女性生殖器の形態と構造を理解し、各部位の名称などを理解する。 女性生殖器疾患の疾患の原因で生じる症状について理解する。 女性生殖器疾患の診察で用いられる検査法の種類と原理について理解する。 女性生殖器に発生する疾患の病態を理解し、診断・検査・治療・予後などについて理解する。 <p>=単元C=</p> <ol style="list-style-type: none"> 皮膚・眼・耳の構造と機能を理解する。 主な症状とその病態生理を理解する。 皮膚・眼・耳の検査と治療・処置を理解する。 皮膚・眼・耳の疾患を理解する。 				
単元	授業回数	【授業内容】		学習形態
A	1	消化器の構造と機能		講義
	2	症状とその病態生理 診察・検査		
	3	疾患の理解1 食道・胃		
	4	疾患の理解2 腸		
	5	疾患の理解3 肝臓1		
	6	疾患の理解4 肝臓2		
	7	疾患の理解5 胆膵 まとめ		
B	1	女性生殖器の構造と機能		講義
	2	症状とその病態生理 A症状 B診察・検査・治療・処置		
	3	疾患 A性分化疾患 B臓器別疾患		
	4	疾患 B臓器別疾患 機能的疾患		
	5	機能的疾患		
C	1	眼の構造と機能 眼の症状 眼疾患について 角膜、白内障、緑内障		講義
	2	眼疾患について 眼底疾患など		
	3	皮膚・耳の構造と機能 皮膚・耳の疾患		
		学科終了試験		
【使用テキスト】			【単位認定方法】	
医学書院 ①消化器 成人看護学[5] (単元A) ②臨床放射線医学 (単元A) ③女性生殖器 成人看護学[9] (単元B) ④解剖生理学 人体の構造と機能[1] ⑤皮膚 成人看護学[12] (単元C) ⑥眼 成人看護学[13] (単元C) ⑦耳鼻咽喉 成人看護学[14] (単元C) ⑧病理学 疾患の成り立ちと回復の促進[1]			評価は単元A50%、単元B30%、単元C20% ・講義終了後、学科終了試験（筆記試験） ・60点以上合格。 ・不合格の場合再試験実施（80点以上合格） ・再試験でも合格できない場合は、単位落としとなる。 （次年度、再取得）	
【実務経験と当該科目との関連】 ・実務経験がある内科医師と産婦人科医師と眼科医師が担当				

【上田看護専門学校シラバス（授業計画）看護学科2年課程】

【必修・選択】	【必修】	配当学年・時期	1年次・前期	担当講師名
分野	専門基礎分野	単位数・時間	1単位・30時間	外部講師 専任教員2名
授業科目名	看護からみる病態	授業回数	15回	
【ねらい・授業目的・目標】				
<p>=単元A=<目的>循環器の解剖生理、病態を理解し、看護に活かす。 循環の解剖・生理・病態等を准看護師教育課程および専門基礎分野における学習内容から復習、確認し、知識の定着をめざす。 <目標> 1) 全身の諸器官を系統的に理解することができる。 2) 循環障害に関連する看護上のニーズ判別のためのアセスメント、充足に向けた看護を理解できる。 3) 心不全の病態を理解し、看護を理解できる。 4) 慢性腎不全の病態を理解し、看護を理解できる。 5) 学びあうことによって、お互いの考えを尊重し、学びを深めることができる。</p> <p>=単元B=<呼吸不全> 1) 呼吸の解剖・生理・病態等を准看護師教育課程および専門基礎分野における学習内容から復習、確認し、知識の定着をめざす。 2) 各臓器の解剖生理や病態を全身的に捉えることを学ぶ。 3) 解剖生理および病態の理解が、症状、検査データ等を看護の視点でアセスメントすることの基盤になっていることを理解する。 4) 看護実践に必要な情報は何かを考えることができる。 5) 疾病、病態が対象にどのような身体的、精神的、心理的、社会的反応を引き起こしているのか考えることができる。</p> <p>=単元C=<肝不全> 1) 肝臓およびそれに関連する臓器、器官の解剖・生理・病態等を、准看護師教育課程および専門基礎分野における学習内容から復習、確認し、知識の定着をめざす。 2) 肝臓およびそれに関連する臓器、器官の解剖生理や病態を全身的に捉えることを学ぶ。 3) 解剖生理および病態の理解が、症状、検査データ等を看護の視点でアセスメントすることの基盤になっていることを理解する。 4) 看護実践に必要な情報は何かを考えることができる。 5) 疾病、病態が対象にどのような身体的、精神・心理的、社会的反応を引き起こしているのか考えることができる。</p>				
単元	授業回数	【授業内容】		学習形態
A	1	1. 心臓収縮の機構、血圧、脈拍～心臓の収縮のしくみ～		講義 共同学習 DVD
	2	2. 尿生成のメカニズムと血圧の調整～血圧と腎臓の関係～		
	3	3. 循環障害に関連するニーズ充足に向けた看護援助		
	4	4. 心不全の病態生理と看護		
	5	5. 慢性腎不全の病態生理と看護		
	6	6. 心不全、慢性心不全の病態生理と看護のまとめ		
B	1	○呼吸器疾患患者の特徴を知る ○呼吸不全とは ○呼吸器領域におけるトピックス		講義 演習
	2	○呼吸器領域で行われる検査 ・画像検査・採血・呼吸機能検査・血液ガス分析・気管支鏡検査・喀痰検査・胸水検査		
	3	○呼吸器領域におけるフィジカルアセスメント		
	4	○呼吸器領域におけるフィジカルアセスメントを応用してみる ・肺炎（間質性肺炎を含む）		
C	1	・肝臓の構造 機能 ・胆汁の組織とビリルビン代謝 ・胆道系の構造と機能		講義 小テスト GW
	2	・症状と病態生理：腹水、黄疸、肝性脳症 ・疾患の理解：肝硬変		
	3・4	・肝硬変の看護を考える		
	5	・グループ発表 ・まとめ		
		学科終了試験		
【使用テキスト】 *医学書院		【単位認定方法】		
①循環器 成人看護学[3] (単元A) ②腎・泌尿器循環器 成人看護学[8] (単元A) ③臨床看護総論 基礎看護学[4] (単元A) ④呼吸器 成人看護学[2] (単元B) ⑤消化器 成人看護学[5] (単元C) ⑥解剖生理学 人体の構造と機能[1] ⑦病態生理学 疾病のなりたちと回復の促進[2]		評価は単元A40%、単元B30%、単元C30% 単元A：筆記試験70% 課題およびGWの取り組み等30 単元B・C：筆記試験 ・講義終了後、学科終了試験（筆記試験） ・60点以上合格。 ・不合格の場合再試験実施（80点以上合格） ・再試験でも合格できない場合は、単位落としとなる。 （次年度、再取得）		
【実務経験と当該科目との関連】 ・実務経験がある看護師、臨床経験がある専任教員2名が担当				

【上田看護専門学校シラバス（授業計画）看護学科2年課程】

【必修・選択】	【必修】	配当学年・時期	1年次・前期	担当講師名
分野	専門基礎分野	単位数・時間	1単位・30時間	外部講師
授業科目名	臨床生化学の基礎	授業回数	15回	

【ねらい・授業目的・目標】

授業目的：生体における物質代謝、エネルギー代謝を各臓器、組織間の相互作用のもとに理解する。

<目標>

=単元A=

1. 生体の成り立ちと最小基本単位である細胞の役割について学ぶ。
2. 生体を構成している基本物質について学ぶ。
3. アミノ酸のペプチド結合によるたんぱく質の構造・特性について学ぶ。
4. 酵素の性質および医療の分野において血清中の酵素活性を測定することによって、診断・治療にいかに関与しているかを学ぶ。
5. 解糖系⇒クエン酸回路⇒電子伝達系の反応過程を学ぶとともにそれに関連した糖尿病について学ぶ。
6. 脂質の種類、体内における脂質の役割および脂質からATPが生成される反応過程を学ぶ。
7. 生体におけるアミノ酸の代謝、アンモニアの無毒化反応、先天性アミノ酸代謝異常について学ぶ。

=単元B=

1. 遺伝子のしくみおよび遺伝子情報のしくみを学ぶ。
2. 体液の役割について学ぶ。
3. いろいろな内分泌腺から分泌されるホルモンとそれらのホルモンの作用について学ぶ。
4. 水溶性ビタミン及び脂溶性ビタミンの種類とそれらを含む食品及び体内における役割を学ぶ。
5. 内・外部環境が変化しても体内の内部環境の恒常性が保たれるしくみについて学ぶ。
6. 各栄養素の消化・吸収の過程を学ぶとともに、エネルギー量・消費エネルギー計算を学ぶ。
7. 血液の成分・役割ほか出血が止まるしくみ、血液型について学ぶ。
8. 尿中に含まれる成分と尿の生成・排泄されるしくみと意義について学ぶ。
9. 最近、ウイルスなどの外敵の侵襲に対し、生体の防御のしくみを学ぶ。
10. 生体の各臓器の主な働きについて学ぶ。

単元	授業回数	【授業内容】	学習形態
A	1	細胞の仕組みと働き, 細胞内小器官	講義
	2	タンパク質とアミノ酸	
	3	糖質	
	4	脂質	
	5	酵素	
	6	糖代謝, タンパク質代謝, 脂質代謝	
B	1	遺伝のしくみ	講義
	2	微小循環と血圧, 膠質浸透圧	
	3	浮腫, 水の出納	
	4	脱水, 電解質とその異常	
	5	酸塩基平衡	
	6	酸塩基平衡と代償作用	
	7	内分泌	
	8	↓	
学科終了試験			

【使用テキスト】

- ・わかりやすい生化学（廣川）
疾病と代謝・栄養の理解のために
副読本
- ・検査値早分かりガイド（サイオ出版）

【単位認定方法】

- 評価は単元A40%、単元B60%
- ・講義終了後、学科終了試験（筆記試験）
- ・60点以上合格。
- ・不合格の場合再試験実施（80点以上合格）
- ・再試験でも合格できない場合は、単位落としとなる。
(次年度、再取得)

【実務経験と当該科目との関連】 ・実務経験がある看護大学准教授が担当

【上田看護専門学校シラバス（授業計画）看護学科2年課程】

【必修・選択】	【必修】	配当学年・時期	1年次・前期	担当講師名
分野	専門基礎分野	単位数・時間	1単位・15時間	外部講師
授業科目名	臨床生化学の基礎	授業回数	7.5回	
【ねらい・授業目的・目標】				
生命の維持、健康の保持・増進・回復のために必要な栄養、食生活について栄養学的視点から学ぶ。				
授業回数	【授業内容】			学習形態
1	栄養素の種類とはたらき 食物の消化			講義
2	栄養素の吸収・代謝 エネルギー代謝			
3	食事と食品 栄養ケア・マネジメント 栄養状態の評価・判定			
4	ライフステージと栄養			
5	臨床栄養 病院食 栄養補給法			
6	臨床栄養 疾患・症状別食事療法 (循環器疾患、消化器疾患、腎臓疾患、嚥下障害他)			
7	臨床栄養 疾患・症状別食事療法 (代謝疾患、がん他、糖尿病食品交換表の使い方)			講義・演習
	学科終了試験			
【使用テキスト】			【単位認定方法】	
医学書院 ・系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [3] 栄養学 ・別巻 栄養食事療法			・講義終了後、学科終了試験（筆記試験） ・60点以上合格。 ・不合格の場合再試験実施（80点以上合格） ・再試験でも合格できない場合は、単位落としとなる。 （次年度、再取得）	
【実務経験と当該科目との関連】 ・実務経験がある管理栄養士が担当				

【上田看護専門学校シラバス（授業計画）看護学科2年課程】

【必修・選択】	【必修】	配当学年・時期	1年次・前期	担当講師名
分野	専門基礎分野	単位数・時間	1単位・30時間	外部講師 医師1名と薬剤師3名
授業科目名	臨床薬理学の基礎	授業回数	15回	
【ねらい・授業目的・目標】				
授業目的： 薬物の特徴、作用機序、人体への影響及び薬物の管理について学び、治療的回復の基礎を理解する。				
単元	授業回数	【授業内容】		学習形態
A	1	・薬物療法と看護 ・薬物学とは何か ・薬が作用するしくみ ・薬の体内動態		講義
	2	・薬物相互作用 ・薬効の個人差に影響する因子 ・薬物使用の有益性と危険性 ・薬と法律 ・物質としての薬物の分類		
	3	・感染症治療に関する基礎事項 ・抗菌薬 ・抗真菌薬, 抗ウイルス薬, 抗寄生虫薬 ・感染症治療における問題点		
	4	・がん治療に関する基礎事項 ・抗がん薬の種類 ・免疫系の基礎知識 ・免疫抑制薬 ・免疫増強薬, 予防接種薬		
	5	・抗ヒスタミン薬と抗アレルギー薬 ・抗炎症薬 ・関節リウマチ薬 ・痛風, 高尿酸血症治療薬		
	6	・神経系による情報伝達と薬物 ・交感神経作用薬 ・副交感神経作用薬 ・筋弛緩薬, 局所麻酔薬		
	7	・中枢神経系のはたらきと薬物 ・全身麻酔薬 ・催眠薬, 抗不安薬 ・抗精神病薬 ・抗うつ薬・気分安定薬 ・パーキンソン症候群治療薬 ・抗てんかん薬 ・麻薬性鎮痛薬 ・片頭痛治療薬		
B	1	・降圧薬 ・狭心症治療薬 ・心不全治療薬 ・抗不整脈薬		講義
	2	・利尿薬 ・脂質異常症治療薬 ・血液凝固系, 線溶系に作用する薬物 ・血液に作用する薬物		
	3	・呼吸器系に作用する薬物 ・消化器系に作用する薬物 ・生殖器, 泌尿器系に作用する薬物		
	4	・物質代謝に作用する薬物 ・皮膚科用薬・眼科用薬 ・消毒薬		
	5	↓		
	6	・救急の際に使用される薬物 ・漢方薬		
	7	・輸液製剤・輸血剤		
		学科終了試験		
【使用テキスト】			【単位認定方法】	
医学書院 薬理学 疾病のなりたちと回復の促進 [3]			評価は単元A50%、単元B50% ・講義終了後、学科終了試験（筆記試験） ・60点以上合格。 ・不合格の場合再試験実施（80点以上合格） ・再試験でも合格できない場合は、単位落としとなる。 (次年度、再取得)	
【実務経験と当該科目との関連】 ・実務経験がある医師と薬剤師3名が担当				

【上田看護専門学校シラバス（授業計画）看護学科2年課程】

【必修・選択】	【必修】	配当学年・時期	1年次・前期	担当講師名
分野	専門基礎分野	単位数・時間	1単位・15時間	外部講師
授業科目名	臨床微生物学の基礎	授業回数	7.5回	
【ねらい・授業目的・目標】				
1. 微生物についての基礎知識、感染と発病、感染症の予防と治療についての知識を得る。 2. 感染防御にかかわる免疫学について基礎的な知識を得る。 3. 原因微生物の汚染ルートがみえるような感染経路の捉え方を学ぶ。 4. 病原体とそれによっておこる疾患との関連を理解する。				
授業回数	【授業内容】			学習形態
1	第1章 微生物と微生物学 ～ 第4章 ウイルスの性質			講義
2	第5章 感染と感染症 ～ 第6章 感染に対する生体防御機構			
3	第6章 感染に対する生体防御機構 ～ 第9章 感染症の治療			
4	第10章 感染症の現状と対策 ～ 第11章 病原細菌と細菌感染症			
5	第11章 病原細菌と細菌感染症			
6	第12章 病原ウイルスとウイルス感染症			
7	第12章 病原ウイルスとウイルス感染症 ～ 付章 寄生虫と衛生動物			
	学科終了試験			
【使用テキスト】		【単位認定方法】		
医学書院 微生物学 疾病のなりたちと回復の促進 [4]		・ 講義終了後、学科終了試験（筆記試験） ・ 60点以上合格。 ・ 不合格の場合再試験実施（80点以上合格） ・ 再試験でも合格できない場合は、単位落としとなる。 （次年度、再取得）		
【実務経験と当該科目との関連】 ・実務経験がある外科医師が担当				

【上田看護専門学校シラバス（授業計画）看護学科2年課程】

【必修・選択】	【必修】	配当学年・時期	1年次・前期	担当講師名
分野	専門基礎分野	単位数・時間	1単位・15時間	外部講師
授業科目名	保健医療論 I	授業回数	7.5回	
【ねらい・授業目的・目標】				
【授業のねらい】 個々の疾病予防に対する自然科学的なアプローチとともに、人々の行動や生活習慣に着目するという社会科学的な面からのアプローチをもとに、生活者の健康の保持・増進のための公衆衛生活動を理解する。				
授業回数	【授業内容】			学習形態
1	第1章 公衆衛生と公衆衛生学 第2章 公衆衛生からみる人間の健康と環境 I 環境を考えるために II 人間の健康問題と自然環境 III 人間の健康と生活環境 IV 人間の健康と環境問題 V 居住環境の生活衛生			講義
2	第2章 公衆衛生からみる人間の健康と環境 VI 食品保健と栄養 VII 薬物と公衆衛生 VIII 環境行政 第3章 人口統計と公衆衛生			
3	第4章 健康と保健統計 第5章 疫学			
4	第6章 予防と健康保持増進			
5	【第2編】 保健活動 第1章 地域保健 第2章 母子保健 第3章 成人保健			
6	第4章 高齢者保健福祉 第5章 精神保健福祉 第6章 難病、障害児・者への支援 第7章 歯科保健			
7	第8章 学校保健 第9章 産業保健 第10章 健康危機管理・災害保健 第11章 国際保健			
	学科終了試験			
【使用テキスト】		【単位認定方法】		
メヂカルフレンド社 健康支援と社会保障制度② 公衆衛生学		<ul style="list-style-type: none"> ・評価割合：筆記試験75%、提出物20%、出席状況5% ・60点以上合格。 ・不合格の場合再試験実施（80点以上合格） ・再試験でも合格できない場合は、単位落としとなる。 <p align="right">(次年度、再取得)</p>		
【実務経験と当該科目との関連】 ・実務経験がある眼科医師が担当				

【上田看護専門学校シラバス（授業計画）看護学科2年課程】

【必修・選択】	【必修】	配当学年・時期	2年次・後期	担当講師名
分野	専門基礎分野	単位数・時間	1単位・15時間	外部講師
授業科目名	保健医療論Ⅱ	授業回数	7.5回	
【ねらい・授業目的・目標】				
【授業のねらい】 医療のあり方が根底から変貌しつつある今日、医療の新しい展開について保健・医療・福祉の総合的な理解の上に立ち学び、看護の目指すべき大きな目標を明確にする。 また、医療や看護の原点についてあらためて考える機会とし、人々の健康生活の保持・増進のための知識を活用できる能力を養うことをねらいとする。				
授業回数	【授業内容】			学習形態
1	「医療と看護の原点」医療現場に求められるコミュニケーションとは 「医療の歩みと医療観の変遷」 自分自身のアドバンスケアプランニングから、 死生観や看護観について深める			講義
2	「私たちの生活と医療」 私たちの生活を支える仕組みを理解する 現代社会の抱える問題点と今後の課題についても考える			
3	「科学技術の進歩と現代医療の最前線」 私たちに求められる論理観			
4	東日本大震災の体験を通して学んだこと 生き方を考える ～福島Family～			
5	「現代医療の新たな課題」 「医療を見つめ直す新しい視点」 医療の管理と計画 様々な立場から「いのち」について捉えてみよう			講義・GW
6	「健康概念の質的变化と保健・医療・福祉の潮流」 チーム医療・在宅医療・地域包括医療システム 保健・医療・福祉システム			講義・演習
7	本講義を受けて改めて「今の自分」が目指す看護師像について明確にして みよう。“看護師として”だけでなく“1人の人として”どう在りたいか に自分自身で気がつこう。			GW
	学科終了試験			
【使用テキスト】		【単位認定方法】		
医学書院 別巻 総合医療論		<ul style="list-style-type: none"> ・講義終了後、学科終了試験（筆記試験）60点以上合格。 ・講義中のレポート提出も成績認定の参考とする。 ・不合格の場合再試験実施（80点以上合格） ・再試験でも合格できない場合は、単位落としとなる。 <p style="text-align: right;">（次年度、再取得）</p>		
【実務経験と当該科目との関連】 ・実務経験がある看護師が担当				

【上田看護専門学校シラバス（授業計画）看護学科2年課程】

【必修・選択】	【必修】	配当学年・時期	2年次・前期	担当講師名
分野	専門基礎分野	単位数・時間	1単位・15時間	外部講師
授業科目名	社会福祉	授業回数	7.5回	
【ねらい・授業目的・目標】				
社会福祉の理念と歴史を学び、現行制度とサービスを将来展望を含めて理解する。				
授業回数	【授業内容】			学習形態
1	社会保障制度と社会福祉（第1章） A 社会保障制度			講義
2	社会保障制度と社会福祉（第1章） B 社会福祉の法制度 所得補償（第5章） A 所得保障制度のしくみ B 年金保険制度			
3	所得補償（第5章） C 社会手当 D 労働保険制度 公的扶助（第6章） A 貧困・低所得問題と公的扶助制度 B 生活保護制度のしくみ			
4	公的扶助（第6章） C 低所得者対策 D 近年の動向 社会福祉の分野とサービス（第7章） B 障害者福祉			
5	社会福祉の分野とサービス（第7章） B 障害者福祉 社会福祉実践と医療・看護（第8章） A 社会福祉援助とは B 個別援助技術 C 集団援助技術			
6	社会福祉実践と医療・看護（第8章） D 間接援助技術と関連援助技術 E 社会福祉援助の検討課題 F 医療・看護・福祉の連携の重要性			
7	社会福祉実践と医療・看護（第8章） G 社会福祉実践と医療・看護との連携 H 連携の場面とその方法			
	学科終了試験			
【使用テキスト】			【単位認定方法】	
医学書院 社会保障・社会福祉 健康支援と社会保障制度 [3]			<ul style="list-style-type: none"> ・ 講義終了後、学科終了試験（筆記試験） ・ 60点以上合格。 ・ 不合格の場合再試験実施（80点以上合格） ・ 再試験でも合格できない場合は、単位落としとなる。 (次年度、再取得) 	
【実務経験と当該科目との関連】 ・実務経験がある介護支援専門員が担当				

【上田看護専門学校シラバス（授業計画）看護学科2年課程】

【必修・選択】	【必修】	配当学年・時期	1年次・後期	担当講師名	
分野	専門基礎分野	単位数・時間	1単位・15時間	外部講師	
授業科目名	関係法規	授業回数	7.5回		
【ねらい・授業目的・目標】					
社会福祉の理念と歴史を学び、現行制度とサービスを将来展望を含めて理解する。					
授業回数	【授業内容】			学習形態	
1	第1章 法 の概念 なぜ法律や制度を学ぶのか ①法の概念 ②法の分類 ③厚生行政のしくみ			講義	
2	第2章 看護法 A 保健師助産師看護師法 B 看護師等の人材確保の促進に関する法律				
3	第3章 医事法 A 医療法（目的・定義・理念病院等の管理、人員、病床、記録等） B 医療関係資格法：医師法 ・歯科医師法 ・薬剤師法 ・診療放射線技師法 ・臨床検査技師等に関する法律 ・理学療法士及び作業療法士法 その他 C 保健医療福祉関係資格法：栄養士法・獣医師法・公認心理士法				
4	D 医療を支える法 ①地域における医療及び介護の総合的な確保の促進に関する法律 ②臓器の移植に関する法律 E 人の死に関する法 F 緊急時の医療に関する法				
5	第4章 保健衛生法 A 共通保健法 ①地域保健法 ②健康増進法 B 分野別保健法令 ①精神保健及び精神障害者福祉に関する法律 ②母子保健法 ③母体の保護法 ④学校保健安全法 ⑤各疾患個別対策法				
6	C 感染症に関する法律 ①感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律 ②新型インフルエンザ等対策特別措置法 ③予防接種法 ④検疫法 D 食品に関する法 ①食品安全基本法 ②食品衛生法 E 環境衛生の法 ①営業 ②環境整備				
7	第5章 薬務法 A 薬事一般 ①医薬品、医療機器等の品質有効及び安全性の確保等に関する法律（旧薬事法） B 再生医療等 C 薬害被害者の救済等 D 麻薬・劇薬、毒物・劇物等 第6章 社会保険法 A 費用保険 B 年金 第7章 福祉法 A 福祉の基盤 B 児童分野 C 高齢分野 D 障害分野 E 手当 第8章 労働法と社会基盤整備法 A 労働法 ①労働基準法 ②労働安全衛生法 B 社会基盤整備等 第9章 環境法 A 環境保全の基本法 B 公害の防止法 C 自然保護法				
	学科終了試験				
【使用テキスト】		【単位認定方法】			
医学書院 看護関係法令 健康支援と社会保障制度 [4]		<ul style="list-style-type: none"> ・ 講義終了後、学科終了試験（筆記試験） ・ 60点以上合格。 ・ 不合格の場合再試験実施（80点以上合格） ・ 再試験でも合格できない場合は、単位落としとなる。 (次年度、再取得) 			
【実務経験と当該科目との関連】 ・実務経験がある保健師が担当					